

国際ロータリー第2630地区 岐阜Aグループ 岐阜中ロータリークラブ

Weekly Report

クラブスローガン ~親睦から奉仕へ・ 奉仕から友情へ~

2013-14 RI テーマ ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を 平成 26 年 6 月 24 日(火)

第1109回例会 第1031号

会長森井脩次 幹事 渡辺成洋

発 行 公共イメージ委員会

例 会 火曜日 12 時 30 分

会 場 岐阜都ホテル

事務局 岐阜市神田町 2-2

電話 058-264-9235

会長挨拶



本日は私が会長として最後の昼例 会でのあいさつとなります。この日を 迎え、改めて今年1年間、渡辺幹事を はじめ全会員のみなさんには大変多 くの支援とご協力をいただき、会長と いう大役を無事終えることができま 見直しをいたしました。 すことを心より感謝申し上げます。

クラブフォーラム

中で、一番に感じたことは、例会への いただきましたが、皆さんに感謝の気 出席です。やはり運営するためには、持ちをお伝えし、最後の挨拶と代えさ 毎週 20 名以上の方に例会出席してい せていただきます。1 年間本当にあり が主な活動となってしまいました。 ただくことが、会の活力につながるとがとうございました。 感じました。今年度の出席を確認した ところ、出席が一番多かった日が25 名でした。逆に一番少なかった日は14 名でした。実際1年間の平均出席率は

20.5 名となりました。次年度以降は是 非、一人でも多くの方に出席していた 会長 森井脩次 だき、活力のあるクラブとなりますよ う期待したいと思います。

> そんな活力あるクラブとなるよう 思いを込めて、今年度は新しい委員会 を立ち上げ、新しい事業を行いました。 その新事業の国際奉仕委員会では、国 際交流としてフィリピンのダバオに 現地調査に行ってもらい、国際交流事 業が実施できる運びとなりました。

また、他の委員会では、より戦略的な 次年度は特別会費がなくてもスムー ータリークラブの事業を見直しても いと思います。 らいました。事業を見直す中、諮問委 員会を臨時に立ち上げ、定款、細則の

そして、会員増強委員会では2回の ファイヤー・サイド・ミーティングを 実施し、全員で会員増強の危機感を持 会長 森井脩次 つことができたと感じました。一年を 私自身、会長として1年間活動する 通じて多くの事業や活動に携わって

親睦委員会副委員長 加藤義明



親睦委員会には予算が少なく、特 別会費にて何とかやりくりしました。 中長期戦略委員会を設置し、岐阜中ロ ズに委員会が運営できるようにした

公共イメージ委員会委員長 野尻大名



この1年間は、例会開催の案内だけ 本来であれば各委員会と連携し、も っともっと内外に向けて岐阜中ロー タリークラブ及びその事業内容を広 く発信するべきでしたが、できなか ったことが心残りです。

前例会の記録

第1108回 平成26年6月17日(火) [点鐘] 1 2 時 3 0 分

[ソング] それでこそロータリー

「ゲスト]

[ビジター]

[出席]会員総数30名(出席免除3名) 本日出席20名 76.67%

「**行事**] クラブフォーラム (6)

担当 会長

次 回 予 定

第1110回

平成26年7月1日(火)

[点鐘]12時30分

「**行事**] クラブフォーラム (1)

担当 会長

より積極的なそして攻撃的な役割を たします。 担えるよう改善していきたいと思い ます。

会員增強委員会委員長 大橋哲也



2 回のファイヤー・サイド・ミー ティングを行いましたが、会長の目 した。

を引き継ぎ、確実に増強に結び付けざいました。 たいと考えております。

職業奉仕委員会委員長 加藤一誠



今年度は10月の一泊例会、5月の できました。

ロータリーバンド委員会

委員長 中山 章



た。4 バンドという少し寂しい発表 委員会でありました。その報告を次の 会でしたが、来期もがんばりますのようにさせていただきます。 で、よろしくご協力の程、お願いい 1. 故金委員長が務める親睦委員会も

社会奉仕委員会委員長 勝野和男



奉仕の実践の場として、長良川の清 掃、橿森公園の清掃を多くの皆さまの 参加で行うことができました。

また、たずさえの森基金として10 標の5名の増強は達成できませんで 万円を岐阜市に寄付いたしましたが、 市長より 10 年間にわたり 300 万もの 幸い来期も会員増強委員長を仰せ 寄付をいただたいたと、御礼の言葉を つかっておりますので、今期の活動 いただきました。ご協力ありがとうご の立場を理解し、その職務を果たして

米山奨学特別事業委員会



中国女性学生さんに奨学金を贈呈 会員の職場訪問例会を行なうことが することになりました。国際交流の一 野尻大名君 助になればと思っております。

クラブ奉仕委員会委員長 安藤元一



今期私が統括する委員会は、親睦・ 6月7日(土)に桑名でのロータ 公共イメージ・会員増強と私が委員長 リーバンド発表会に出てまいりまし を務めました中長期戦略委員会の4

事あるたびに委員会を開催し、予算 の無い中、事業を遂行していただき ました。

- 2. 野尻委員長が務める公共イメージ 委員会も毎週の例会案内をメール にて事前連絡に努め、出席率向上に 貢献していただきました。また、週 報も毎週正確に出すことができま
- 3. 大橋委員長が務める会員増強委員 会は、年度始めに中島敏博会員の入 会がありました。その後2回にわた る夜間例会での新会員加入の情報 交換の成果もあり、今年度は無理で したが、次年度2名の入会者を迎え ることができました。

各委員会委員長・委員ともそれぞれ いただいたと思います。

また、委員会事業が円滑に実施でき 委員長 松井順五 ましたのも会員皆様のご協力の賜物 とお礼を申し上げ、報告と致します。

友情と奉仕の灯を

スマイルボックス委員会

森井脩次君

1年間、会員の皆さんには大変ご協 力いただき、無事会長を終えること ができました。ありがとうございま した。

会社の都合で、一時休会をすること になりました。諸先輩方の下でロー タリー活動ができたことを大変う れしく思っています。復帰の際はよ ろしくお願いします。

アンケート結果を受けて

(平成 26 年 6 月 17 日例会にて)

岐阜中ロータリークラブ 中長期戦略委員会

1.「たずさえの森」事業への参加の是非について

「たずさえの森」事業への参加は、現状維持(11 名)と、見直しまたは中止(11 名)という意見が全く同数となった。そこで仮に継続を前提にした場合、どのように事業を見直すかというアンケートの集計結果では「岐阜市近郊の場所に限定し、事業の継続が14件」と一番多い結果となり、その他の見直し案はほぼ横並びとなった。

以上のことから「たずさえの森」事業を今後も継続とするならば、岐阜市と協議し岐阜市近隣で同一場所にて植林・育林活動(下草刈りや枝打ちなど)を実施。そしてこの事業をより充実させる為の手段として他のアンケート内容を参考にして事業に盛り込むことも検討しては。

岐阜市への寄付金の件はクラブの財政状況も考慮しなければならないが、継続してはと思われる。

2. 「出前授業」事業への参加の是非について

「出前授業」事業への参加の是非は、現状のままで良い意見(11 名)と中止または事業の見直しの意見(12 名)がほぼ同じ結果となった。ただし、「たずさえの森」の事業のようにメンバー全員参加型の事業とは違い、一部の会員による活動である為、全会員にその出前授業の内容が明確に理解されていないようである。こうした点からも「出前授業」の内容を全会員に周知させ、コンセンサスを得ることが必要かと思われる。

また一方、今の教育現場に於いては「キャリア教育」の名目で職業に従事している外部講師を招き授業を実施している。そういった意味ではロータリアンであれば誰でも講師が務められると思いますので、わざわざ教育委員会に問い合わせるような大事に考えなくてもいいかもしれません。しかし、授業を受ける相手は小・中学校生。携わる職業こそ違っても、ロータリアン(企業の経営者)として彼らに何を伝えるかを明確にして事業に当たるべきかと考える。

次年度への提言

中長期戦略委員会

これまで中長期戦略委員会は、いろんな視点から岐阜中ロータリークラブに対する会員の意識調査を実施。その結果、会員の大半が「岐阜中ロータリークラブはこのままではいけない」という危機感を持っていることが確認でき、そのこと自体が大きな成果であった。その中で現在問題となっている2つの社会奉仕活動に対し、事業の継続か中止または見直しが必要かのアンケートを取り、結果は現状のまま継続と中止または見直しとほぼ同数であった。そのため更に継続を前提とした場合の見直し案の絞り込みを模索したが、これといった目新しい見直し案も浮上しなかったように思われる。その結果を踏まえ、当委員会として下記に次年度への提言とする。

「たずさえの森」

当クラブの長年の継続事業である社会奉仕活動「たずさえの森」協力事業は、平成8年から18年にわたり継続してきた。しかし、最近では、岐阜市近郊での育林活動でも参加者が少ないことや花火大会直後の長良川清掃や橿森公園の清掃が他にあるため、実働を必要とする育林活動は中止とする。しかし、財政的な問題はあるものの今後の岐阜市との関係を考えるなら「たずさえの森」協力金は継続することが望ましいと思われる。また一方では当クラブにできる地域社会が必要とされる新しい社会奉仕活動を模索するべきと考える。

「出前授業」

現在行われている「出前授業」は個人的な奉仕活動のように思われる。そもそも出前授業とは文科省のキャリア教育(望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育を意味するものである。)の一環として行われている授業である。

そうした観点からロータリークラブは経営者の集団であるため、ロータリアンであれば誰でも自分の体験から授業として話すことは容易に思われる。しかし、小中学生を対象に前述したようなキャリア教育の趣旨に沿った「授業内容」となれば、無闇な話は出来ないと考えられる。よって個人的なボランティア活動としてなら問題は無いが、ロータリークラブの事業とするならば、当クラブ会員や第三者から異論が出ないような活動内容を模索するべきではと考える。